

## ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

今年、紅葉が長続きしているようです。皆さんの周辺ではいかがでしょうか？

台風や豪雨の影響で、木々の葉が痛んでいて、紅葉が良くないのではないかと、言う予想に反して、ブナやナラ類、モミジ類の紅葉はおおむね良好のようです。イチヨウはあまり調子が良くないという報告もあります。影響を受けた木と、そうでもなかった木があったようです。

さて、10月27日、28日に開催された中国地方5県交流会では、参加してお手伝いいただいた会員の皆さまの献身的な活躍のおかげで、事故もなく、充実した楽しい時間を持てました。晴天の元、毛無山の山頂からは360度の眺望と、眼下の紅葉したブナ林を眺めることができました。今後は、新年会、4月の毛無山での自然観察会、6月の年次総会へと続きます。これからも会員の皆様と一緒に、自然観察を通して自然の不思議さを実感しながら充実した楽しい時間を持ちたいと思っております。

## 新年会のお知らせ

- 開催日時：2019年1月26日（土）  
18時～
- 会場：和さび岡山店
- 会費：5000円
- 参加希望者は、藤本さんに1週間前までに  
携帯電話 090-6834-2414  
アドレス watarufu@email.plala.or.jp

## 第11回自然観察会 早春の毛無山の動植物（第2回）（締切4月21日）

- 開催日：2019年4月28日（日）
- テーマ：早春の毛無山の動植物
- 集合 午前10時 田浪キャンプ場駐車場
- 行程 毛無山登山道を5合目までを往復
- 持ち物 飲み物、双眼鏡、筆記用具、雨具
- 申込 西本 ([taknishi@js4.so-net.ne.jp](mailto:taknishi@js4.so-net.ne.jp))
- 見所 早春の森林内は明るくて日差しも暖かく、早春を彩る花々であふれています。麓の林内では、トキワイカリソウ、キクザキイチゲ、ミヤマカタバミ、エンレイソウなどの多くの花が見られます。併せて、野鳥やムササビなどの動物の痕跡も観察できるかも知れません。
- 昼食 さくら茶屋（1500円程度の実費）
- 解散 14時
- その他
  - ・昨年と同様に、新庄村森林セラピー協議会との共催です。
  - ・今回、阪神間に在住する知人にも呼びかけて、自然観察の機会を提供する予定です。
  - ・会員の皆さまの中に県外に在住する知人がいらっしゃるならば、ぜひとも紹介してください（一般の方の参加費は昼食込みで5000円と割高ですが、都市部で参加したい方には値打ちがあります）。

## 2019年 年次総会のお知らせ

- 開催日時：2019年6月16日（日）  
10時～15時（午後は雨天又は河川状況により中止）
- 開催場所：赤磐市中央公民館と砂川河川敷
- 集合：10時 赤磐市中央公民館
- 年次総会：10時～11時
- 研修：観察会の実践記録と進め方
- 午前：座学、午後：野外で体験  
橋本さんから、午前はこれまで実践してきた観察会の開催事例を紹介していただきます。午後は、実際に河川敷で、水辺の生きものを採取し観察します。会員の皆さんも、自宅周辺で子どもたちを集めて指導できるように研修します。

## ホームページのお知らせ

当会は、ホームページを開設しています。自然観察会の予定、会誌のバックナンバー、会費の振込先などの情報が掲載されています。会費は年度制ですので、過去の会費も納入できます。

<http://www002.upp.so-net.ne.jp/noi/>

10月27日(土)・28日(日)に蒜山高原(真庭市)と毛無山(新庄村)にて中国地方5県交流会が開催されました(写真1)。中国地方各県から、50名の自然観察指導員が参加して交流を深めました。岡山県からは、16名が参加しました。27日は小雨交じりで強い風が吹くあいにくの天候でしたが、蒜山高原での自然観察、28日は快晴のなかで毛無山での自然観察会が実施されました。



写真1. 蒜山振興局での受付。

## 蒜山高原の観察会

蒜山高原では、フサヒゲルリカミキリの草地で西本さんが解説しました。『フサヒゲルリカミキリはカミキリムシ科フトカミキリ特産種です。寒冷な草原環境に適応した一群で、生きた草本類を寄主とする地史的に新しいタイプのカミキリムシであり、旧北区に分布しています。この間に過去確認された生息地のほとんどが姿を消し、現在では、確認できている生息地は岡山県の蒜山高原のみとなっています。岡山県では希少野生動植物の指定を受け、環境省の「種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づいて捕獲・採取や販売、譲渡を禁止する“国内希少野生動植物”に指定されています。ユウスゲやゼンテイカに依存する独特の生活史を持つ昆虫です。』(「絶滅危惧種フサヒゲルリカミキリの生活史、とくに野焼きと蛹化の関係について」(当日の資料から))



写真2. 雪江さんのサクラソウの説明。

サクラソウの保護区では雪江さんがサクラソウについて解説しました(写真2と3)。『サクラソウ(桜草)は、北海道から九州南部までの湿り気が多い草地に生育する多年草で、4~5月頃、葉と同時に20cmほどになる花茎の先に数個から十数個の淡い紅紫色の花を咲かせます。生育地の環境変化や開発、園芸御目的の採取によって全国的に減少し、絶滅が危惧される状況となっています。岡山県内においても、かつては点々と自生していたというが現在ではかつての自生地がほとんど姿を消しており、蒜山地域で「山焼き(火入れ)」によって維持されている半自然草原や、河川沿いなどに小さな集団がかるうじて残っている状態です。2009年4月に「岡山県希少野生動植物保護法条例」による、指

定希少野生動植物とされ、本種の種子を含む採集や損傷が禁止されました。本種は、雌しべの位置と雄しべの異なるタイプの花を持つという性質(異型花柱花)を持っており、雌しべの長いタイプの花(長花柱花)は、雌しべが短いタイプの花(短花柱花)の花粉で受粉しなければ、種子ができず、逆に短花柱花は、長花柱花でなければ種子ができない仕組みになっています。』

(「サクラソウと草原保全活動について」から引用

(雪江さんが用意した資料)。加えてインターネットの表現では、サクラソウは虫媒花で、マルハナバチと共進化をしてきた植物で、「最近マルハナバチの減少から、中間型(中花柱花)が出現している」との報告がある。報告ではマルハナバチの保護も、同時に行う必要性も提起してありました。フサヒゲルリカミキリもサクラソウともに「山焼き」と深く関連していることが強調されていました。また、どちらの種も盗採取にあっているとの話に悲しい思いをしました。人間と関わりが深い両種ですが、ひょっとするといずれの種はともに人間が最大の脅威となっているのではないかと思います(資料が必要な方は西本さんに依頼してください)。

定希少野生動植物とされ、本種の種子を含む採集や損傷が禁止されました。本種は、雌しべの位置と雄しべの異なるタイプの花を持つという性質(異型花柱花)を持っており、雌しべの長いタイプの花(長花柱花)は、雌しべが短いタイプの花(短花柱花)の花粉で受粉しなければ、種子ができず、逆に短花柱花は、長花柱花でなければ種子ができない仕組みになっています。』

定希少野生動植物とされ、本種の種子を含む採集や損傷が禁止されました。

本種は、雌しべの位置と雄しべの異なるタイプの花を持つという性質(異型花柱花)を持っており、雌しべの長いタイプの花(長花柱花)は、雌しべが短いタイプの花(短花柱花)の花粉で受粉しなければ、種子ができず、逆に短花柱花は、長花柱花でなければ種子ができない仕組みになっています。』

(「サクラソウと草原保全活動について」から引用

(雪江さんが用意した資料)。加えてインターネットの表現では、サクラソウは虫媒花で、マルハナバチと共進化をしてきた植物で、「最近マルハナバチの減少から、中間型(中花柱花)が出現している」との報告がある。報告ではマルハナバチの保護も、同時に行う必要性も提起してありました。フサヒゲルリカミキリもサクラソウともに「山焼き」と深く関連していることが強調されていました。また、どちらの種も盗採取にあっているとの話に悲しい思いをしました。人間と関わりが深い両種ですが、ひょっとするといずれの種はともに人間が最大の脅威となっているのではないかと思います(資料が必要な方は西本さんに依頼してください)。



写真3. 採草地にあるサクラソウ自生地。

## 蒜山：自然と人間の関係史—100万年前が現在に伝えるもの— 前原茂雄（蒜山郷土博物館・博物館長）の講義



津黒高原荘では前原茂雄先生の講義がありました（写真4）。講演の課題は、自然と人との関係史を、蒜山地域を客体として考察、現在に与える影響と、未来への課題をしめすことでした。歴史をめぐる課題として、次の点を提起されました。

- ・ 景観の危機～「山焼き」による草原景観 「使い川」
- ・ 動植物の危機～ オオサンショウウオ、カワシンジュガイ等
- ・ 伝統文化の危機～郷原漆器等 自然との関係で形成された文化

写真4. 講演会の様子。



写真5. 蒜山の郷土料理に舌鼓！各県のお土産多数！



写真6. 津黒高原荘玄関前での記念撮影。

### 毛無山のブナ林（10月28日）

翌日は、快晴となった毛無山では、毛無山登山と森林セラピーロードの2つのコースに分かれて、それぞれ自然観察会を開催しました。毛無山では、西本さんが紅葉の始まったブナ林内で調査中の22年生のブナの若木を示しながら説明（写真7）。毛無山では、かつて行われていたたたら製鉄の燃料としてブナ林が伐採されて、炭に焼かれていたことや、伐採後は、残された母樹からササのない林床で芽生えたブナが、ササが回復するまでの短期間に生長して大きくなったものが大木となり、いずれのブナも150年前後であること、それ以外のブナは低木も見られないことが説明されていました。ササに覆われた林内では、ブナは芽生えても大きくなれず、次世代が育っていないため、ブナ林として継続できるのか心配されていることが説明されました。

快晴の頂上では素晴らしい紅葉が！登りきった人は、紅葉の進むブナ林を眼下に眺め、360度のパノラマに時間を忘れて見入っていました（写真8）。



写真7. 紅葉のブナ林内を登山する。



写真8. 快晴の毛無山山頂での記念撮影。

#### 参加しての感じたこと

フサヒゲルリカミキリやサクラソウは蒜山の人間の歴史と深く関係しながら、生存してきたこと。生物多様性を保全していくためには、人間の文化や営みも大切であることを知ることができた。そして蒜山や新庄村の「山焼き」・草刈り等のボランティアはインターネットでしらべることができるので皆さんで協力していくことができたらいと思いました。

山根 一郎